

昭22・4	昭21	昭20・12	昭20・8・15	昭20			昭19		昭18
<p>長谷村立長谷小学校と改称。高等科廃止となる。新制中学校が設立される。</p>	<p>物資不足の時でもあり、また勤労精神を涵養する意味もあって、戦後も引き続いて勤労作業は行われた。川向うの田、峰さんの家の上の畑、さらに炭焼き作業などしたが、高等科の生徒はまことに手なれたもので立派な木炭を生産していた。</p>	<p>食糧事情も悪く、医薬品も乏しいために、四名の児童が死亡している。</p>	<p>進駐軍が三名銃をかついで来校。通訳もいないため、大いにあわてる。暖かい部屋に通してほしいというので、大きい木炭火鉢のある職員室に通し、牛乳をわけてもらってきてふるまう。</p>	<p>終戦、戦後の苦しく貧しい時代が始まる。</p>	<p>「戦時教育会」が公布され、学徒隊結成、軍の予備軍的存在となり、千才村の鹿道原飛行場造成工事に高等科の生徒は動員されて行く。井田小学校や柴原小学校の生徒とよくケンカをしたものである。</p>	<p>卒業生の就職先も戦時色が濃厚であった。 大分中島製作所、佐賀関製錬所、九州飛行機株式会社、海軍乙飛行予科練習生、満蒙開拓義勇軍、農兵隊</p>	<p>勤労奉仕 二十日、桑皮 一、八〇〇貫、ドングリ 六一俵、野生ラミ 四八貫、干柿 三、一六〇個、縄 九〇〇貫、木炭搬出 一、二〇〇俵、薪搬出 三、〇〇〇束</p>	<p>戦争はますます苛烈をきわめ、その中での教育は、不自由の中にも「ほしがりません勝つまでは」の念にもえていた。戦力増強のために職員、児童一致団結してこれにあたる。昭和十九年度一年間の記録によると、</p>	<p>勤労奉仕作業で出征兵士の家庭に出かけていく。稲刈り、麦刈り、木炭運びの加勢をする。鎌の使い方など上級生が下級生に指導しながら技と体力の練成につとめる。三ノ岳や栗ヶ畑からの木炭運びの苦労が忘れられない。</p>

▼昭和17年度のアルバムより



▼運動会での全校体操

